

平成21年度 第7回 CCC 情報専門系グループ運営委員会  
議事概要

- I. 日時：平成22年1月22日（金）11時から13時
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局 会議室
- III. 出席：大原茂之委員、斉藤信男委員、日置慎治委員  
事務局：井端事務局長、森下、恩田

議事概要

I. 情報系学士力の国際レベルに相当する部分について

前回までの議論を受け、今回は、情報系学士力の国際レベルに相当する部分を議論することにしていたが、国内レベル・国際レベルに分類することが本当に必要なことなのか、すでに作成済みの、専門レベルをよく読めば、Computing07に匹敵する部分も対応可能とも読める、との意見がでた。

むしろ、学士力の定義の前に、国際レベル、グローバル、という理念をしっかりと示して、各大学等がカリキュラムを作成する際の指針となるようにしたらよいのではないか、ということになり、大原委員が準備した以下の案をただき台にして議論してはどうかということになった。

（検討案）

情報通信系教育で特に重要なことは、我が国が抱える少子化という問題の存在と、情報通信システムあるいは情報通信技術を応用した製品開発がグローバルに展開・拡大していることである。私立大学の情報通信系教育を成功させるためには、学生の就職率向上、留学生の安定確保、国際展開を行っている企業との連携などが考えられよう。こうした観点からは、グローバルに通用する学士力が求められるとあってよい。情報通信系において定める専門レベルは、こうしたグローバルに通用することを目指す専門性をもった学士力であり、一般レベルはグローバルに通用する情報通信系の常識を教授する学士力である。グローバルに通用する学士力を修得させるには、各到達目標の到達度に加えて次の事項を満足するように教育する必要がある。

- 1) 情報通信系の教育内容と国際社会を含む実社会での業務との関係の概要の理解
- 2) 国際社会で情報通信系の仕事を行うことの動機付け
- 3) 工学、社会学、心理学など他の学問領域についても積極的に知ろうとするモチベーション
- 4) 情報通信系のシステムは、国ごとに異なる法律、文化、宗教、生活習慣、個人の生活などと密接に関係していることを理解し、こうした国の特性を認めていく姿勢の熟成
- 5) 情報通信系のシステムの構成要素は、明確に定義できるものだけでなく、上述した文化や習慣など定義することが困難な事項も取り扱うことの重要性

- 6) 情報通信系のシステムの設計あるいは運用において、組織的活動とは何かを理解し、組織の中で協調することの重要性の理解
- 7) 情報通信系のシステムとビジネスモデルの関係理解
- 8) 人種の違い、地位の上下などに囚われずにコミュニケーションを確立し、相互理解を深める

## II. 今後の情報系の位置づけについて

当委員会は今年度で解散となり、新年度以降は新たな枠組みで議論をしていくことになるが、情報系の位置づけはどうあるべきか、について自由に意見交換を行った。

- ・ 国際的に認められるとはどういうことか。
- ・ 米国ベンチャー精神に見習うことが多い
- ・ 朝日新聞「シンガポールの記事」は興味深い
- ・ 私情協が今後は、政府や学界に提言していく必要があるのではないか
- ・ 科学技術のお金が、企業はコンピューティング、企業はライフサイエンスと異なっている現状は看過できない
- ・ 欧州は環境が戦略、スマートグリッド等
- ・ 学士力のほか、学習モデル、教育方法モデルも重要である
- ・ これからは情報がベースとなり、各分野はその上に構築されてくるだろう
- ・ 教授陣をどう確保するのか、が問題である
- ・ 人材シェアリング、先生と社会とのマッチング
- ・ 教員の教育力、教員評価
- ・ 教育者としての、ティーチングポートフォリオ作成の意義
- ・ 情報系教員は、特に現場力が必要となるだろう
- ・ 教員インターンシップを推し進める必要性
- ・ 産学連携は来月実現の第一歩を踏み出す

## III. 産学連携人材ニーズ交流について

情報系の学士力のまとめについて、大原委員が代表して交流会にて報告を行う。2月中旬をめぐりに下書きを作成するので、各委員はそれについて意見があれば連絡することとした。

## IV. その他

今回をもって、CCC 情報系委員会は終了し、次年度からは情報教育研究委員会情報専門系分科会として活動することになった。